

本当に恐れるべきもの

マタイ一〇・二六～三一

「人々を恐れてはならない。…体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」(一〇・二六、二八)

いじめっこがクラスにいたら、とても困りますね。なにもしていないのに、嫌なことをいつてきたり、ぼかぼかと叩いてきたり。力も強く、どうしたって勝てそうにない。そんなとき、「こわいなあ」と感じます。こわいから逆らえず、嫌なのにその人が言うことに合わせてしまう自分を後から情けなく思ったりします。

そんな僕らの弱さを知っているからでしょうか、聖書はいいいます。「人々を恐れてはならない」。

誰だって恐がりたいわけじゃない。でも怖いものは怖い。逆らってまた叩かれたら嫌なもの。なんで聖書はそんな無理なこと言うの？ その

理由は、本当に恐るべき者がある、から。人間にできるのは体を殺すところまで。しかし、「本当に恐るべき者」は体だけでなく、魂も滅ぼすことができる。確かに、魂まで滅ぼされたらたまりません。では、魂まで滅ぼすことができる者って一体、誰？

魂を造つてくださった方、です。神様は人間を造られたとき、土くめで体を造つただけでなく、その後、鼻から命の息を吹き入れました。そこに僕らの魂がある。命がある。人間をこ覧になつて、なんとすばらしい！ と喜ばれた神

の愛を一身に受け、あなたは今、生きている。その魂を誰も奪つことはできません。